

「御城印」の題字 高校生が筆書き

隷書の御城印＝県立嵐山史跡の博物館提供

国指定史跡 比企城館跡群菅谷館跡
鎌倉幕府御家人 畠山重忠館伝承地



嵐山史跡の博物館、4種順次販売

鎌倉時代の武蔵武士、畠山重忠が暮らしたとされる菅谷館跡にある県立嵐山史跡の博物館が、地元の高校生が題字を筆書きした「御城印」を作った。1年間で4種類の字体を順次販売していく。

菅谷館跡は重忠没後、戦国期に改築されて今に至る城郭。館跡への関心を若い

人にも広げようと、記念証として人気の御城印の題字を、大妻嵐山高校書道部に依頼した。

寄せられたのは、4人の新3年生が書いた隷書、行書、草書の作品。生徒たちは「貴重な機会をいただいた」などと話しており、それぞれの字体が約3カ月おきに販売される。(永沼仁)